

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホーム おだやか		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町上ノ国274番地の1 (電話) 0139-55-3117		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月7日	評価確定日	平成20年12月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上ノ国町は北海道発祥の地ともいわれ、江差・松前町と共に歴史の深い街である。グループホームおだやかは、雄大なその名も「天ノ川」を越えて夷王山の麓にある。母体が整骨院という事もあり、理念の「機能訓練重視型のサービスにより…」を実践するユニークな施設である。今春には看取りも経験し、ターミナル・ケアへの本格的な実践に向けて努力している。サービスの充実に担当制を取り入れ、細やかな介護を実践している。来春には2棟目のユニットを建築・開業する予定であり、今後も活躍が期待される事業所である。

【情報提供票より】 (平成20年11月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	13 人	常勤	9人,	非常勤 4人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円 日常生活費 3,000円 暖房費(10-4月)5,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり・月額		

(4) 利用者の概要 (11月 19日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上ノ国町立上ノ国診療所、上ノ国町立上ノ国歯科診療所
---------	---------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である運営推進会議の開催は、既に取り組みされており改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は初会合を実施している。内容は理念の説明が主であったため、今回は「具体的な介護の内容も…」と求められている。この運営推進会議を通して地域活動を広め、住民との交流や認知症の理解の啓蒙が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と話し合う機会を持ち、気軽に話しあえる雰囲気作りに努めている。現在、苦情は持ち込まれていないが、取り組みとして居間に苦情・相談の連絡窓口の明示をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入っており、少しずつ活動を広げている。利用者が近所で買い物をしたり、散歩の折は、それとなく見守りを依頼して、地域との連携をはかっている。今後は幼稚園や小学校に働きかけて、訪問等を依頼する取り組みが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「寝たきりに しない・させない・ならない…」という理念をかかげている。母体の整骨院の機能回復訓練を通し、利用者へのサービスや地域住民との交流を事業所の理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすい所に掲示している。タイムレコーダーの前に理念を掲示して、職員は出勤時に復唱して、心がけて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、少しずつではあるが活動を広げている。近所の商店などに利用者の事を伝えてあり、散歩の折にはそれとなく見守りもお願いしている。	○	利用者で住民票を移していない方が、敬老会に参加できないでいる。運営推進会議での議題とし、改善出来ないかを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は自己評価を職員全員で取り組んでいる。その取り組みを通して改めて自己評価の重要性を認識している。前回の外部評価の改善にも積極的に取り組み、実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先月、初運営推進会議を開催している。次回は、来年1月に予定しており、運営推進会議を活かした取り組みを実践しようとしている。この運営推進会議を通して地域活動を広め、住民との交流や認知症の理解の啓蒙が期待される。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや町介護保険課などと情報を共有して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個人情報に配慮して、月1回の情報誌に掲載する写真も利用者個人に限定している。情報誌には、利用者個人の体重測定・入浴日・受診日・誕生会などと共に記載して、家族に日常を伝えている。	○	金銭を預かっている利用者は少ないが、メモで記入している。今後はきちんと帳簿をつけての管理を望む。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所の折りに積極的に話しかけるなどして、意見や不満を表せるように心がけている。現在、苦情は持ち込まれていない。又、居間に苦情・相談の連絡窓口の明示もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係をよりよくするために、担当制を敷き実践している。職員が変わっても利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。運営者は職員の移動により利用者への影響を十分理解しており、利用者との馴染みの関係を大切にしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てるための研修に取り組んでいて、町内外の研修に参加させている。研修報告書も作成しており、社内での報告も行っている。	○	報告書を作成したら、管理者の確認印の他に、職員の閲覧印も押して確認をとることを望む。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	桧山地区でのネットワークづくりは進んでいない。研修時に意見交換している。	○	ネットワークづくりと職員の研修を兼ねて、他の施設見学研修の取り組みを期待する。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者も交えて何回か検討を重ねた後の入所となる。入居後も利用者の状態にきめ細やかに対応するため、当初1ヶ月、以降3ヶ月とモニタリングし、工夫しながらサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との会話から学ぶことも多く、積極的に利用者として行こうと心がけている。利用者の言葉を聞き逃すことなく大切にしており、一緒に過ごしながら共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は「家族の一員としてその人らしく…」など、基本理念をもとに一人ひとりの思いや意向を組み、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良い、利用者個々のケアプランに反映させるべく、6月より担当制をしいている。2～3ヶ月ごとに介護計画会議を開いている。	○	介護計画の会議を定期的（月に一度）に開催する事を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は1ヶ月でモニタリングし、その後介護計画の見直しを3ヶ月ごとに行っている。家族の意向や状況の変化により随時、見直しを行いきめ細かに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を取り入れ、外出・受診対応など様々に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度、グループホームのかかりつけ医を受診している。適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今春に看取りを経験している。ターミナルケアについての情報収集を行っている。	○	今後とも、包括支援センターや協力病院と話し合い、ターミナルケアに向けた方針の共有への取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に穏やかに優しく対応していて、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるよう支援している。天気の良い日は散歩や買い物など一人ひとりの希望により、臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「今日は何食べたい？」と利用者に話しかけて、その日の食事を用意し、楽しくおいしい食事になるように努めている。職員は一人ひとりの能力に合わせて、食事の準備、後かたづけを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、水曜日が受診日なので、原則的に火・金で行っているが、本人の希望に添って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩に付き添ったり、カラオケや折り紙など一人ひとりに合った役割や楽しみ・気晴らしの支援をしている。来年は畑作業を充実させて、利用者を楽しませたいという希望をもっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診日や買い物に同伴して出かけている。天気の良い日は散歩にでかけ、お茶を飲んだりして楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には元々鍵が設置されていない。日中は玄関には鍵はかけていない。	○	利用者の中には就寝時居室の鍵をかけることで安眠する人もあるので、この点の配慮が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の人も参加して、消防署と一緒に年2回(昼間想定、夜間想定)避難訓練を行っている。	○	地震対策として居室・居間など、倒壊するおそれのある家具などの自主点検を望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については1000～1500ccを基準として個々に極端な偏りがないように、一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はゆったりとしており、明るくきれいである。手作りの飾り物などを配置して居心地よく過ごせるような工夫をしている。清潔が保たれていて不快な臭いや音は感じない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や生活用品があり、居心地良く過ごせるようになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。